

リテラシー科目群

外国語分野

外国語分野は、英語・中国語・ドイツ語・フランス語・朝鮮(韓国)語から選択することができます。

英 語

1年次		2年次		3年次	
前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期
標準英語Ⅰ a・標準英語Ⅱ a		標準英語Ⅲ a・標準英語Ⅳ a			
標準英語Ⅰ b・標準英語Ⅱ b		標準英語Ⅲ b・標準英語Ⅳ b			
実践英語Ⅰ・実践英語Ⅱ		実践英語Ⅲ・実践英語Ⅳ			
(夏休み集中) チャレンジャー英会話					
英会話Ⅰ		英会話Ⅱ・英会話Ⅲ			
英文リーディングⅠ		英文リーディングⅡ・英文リーディングⅢ		英文リーディングⅣ・英文リーディングⅤ	
				実用英語Ⅰ・実用英語Ⅱ	

標準英語Ⅰ(a,b)～Ⅳ(a,b)

「読み、書き、話し、聞く」という基礎英語能力をバランスよく伸ばすことを目指したベーシック科目です。aはリスニング・スピーキングを、bはリーディング・ライティングを重視した内容となっています。1年次開講「標準英語Ⅰ a/Ⅱ a、Ⅰ b/Ⅱ b」はペア科目となり、a・bとも1年を通して同じクラスでの受講となります。2年次以降に関してはa・bのペアはなくなります。ただし、Ⅲ・Ⅳは年間を通じたカリキュラムですので英語力向上のためにⅢ・Ⅳは通年で受講してください。

実践英語Ⅰ～Ⅳ

高いTOEICスコアを目指す方に最適。**英検準2級合格レベル以上**の英語力がある人を対象としています。

チャレンジャー英会話(夏休み集中)

英会話に興味がある方にお勧め。短期間に実践的な英会話を身に付けることを目指します。

英会話Ⅰ～Ⅲ

生きた英語でしゃべったり、遊んでみたりしてみたい方のための科目です。

英文リーディングⅠ～Ⅴ

読むことを中心に訓練するクラスですが、英語による質疑応答や様々なテーマでの議論や味わい方を通じてスキルアップを目指す科目です。

実用英語Ⅰ・Ⅱ

「聞く・話す・読む・書く」という英語スキルをさらに磨き、コミュニケーション能力を高めようとするアドバンス科目です。

履修系統図

	1年次		2年次		3年次	
	第1 Semester	第2 Semester	第3 Semester	第4 Semester	第5 Semester	第6 Semester
英語基礎 (L&S)	標準英語 I a 標準英語 II a		標準英語 III a	標準英語 IV a		
英語基礎 (R&W)	標準英語 I b 標準英語 II b		標準英語 III b	標準英語 IV b		
会話	チャレンジャー英会話 (夏季集中) 英会話 I		英会話 II	英会話 III		
資格対策 (TOEIC)	実践英語 I 実践英語 II		実践英語 III	実践英語 IV		
読解	英文リーディング I		英文リーディング II 英文リーディング III	英文リーディング IV	英文リーディング V	
4技能統合					実用英語 I	実用英語 II

凡例 一括登録・クラス指定

 クラス指定なし

統一定期試験 (標準英語 I a・II a、標準英語 I b・II b、実践英語 I～IV)

個別試験 (統一定期試験以外の英語科目)

注1：標準英語Ia・IIa及び標準英語Ib・IIbについて学力診断テスト結果をもとに上位・中位・下位レベルに分かれる（ただし、栄養学部はクラス分けなし）。

注2：標準英語IIIa・IVa及び標準英語IIIb・IVbについて人文学部は一括登録。その他学部は選択科目でクラスやレベル指定なし。

注3：2017年度現在、標準英語Ia・IIa及び標準英語Ib・IIb統一試験はACE Placement Test、実践英語はTOEIC IPテストを使用。

注4：クラス指定科目以外、全ての科目で定員に制限があり。希望者が多い場合抽選で履修者選考。

神戸学院 カレッジ (SE)	チャレンジャー英会話 実践英語 II 英文リーディング I 英会話 I	実践英語 III 実践英語 IV 英文リーディング II 英文リーディング III	英文リーディング IV 英文リーディング V
----------------------	--	--	---------------------------

注1：神戸学院カレッジは特別選抜クラスですので、一般の学生は受講できません。

外国語分野

ドイツ語

1年次		2年次		3年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期
初級ドイツ語 I a	初級ドイツ語 II a	中級ドイツ語 I a	中級ドイツ語 II a		
初級ドイツ語 I b	初級ドイツ語 II b	中級ドイツ語 I b	中級ドイツ語 II b		
				実用ドイツ語 I	実用ドイツ語 II

注) 1年次 a と b は連携、2年次検定クラスを除き a と b は連携

初級ドイツ語 I (ab)・II (ab)

a と b はリレー式に進みます。成績評価では、a では文法と読解の能力を、b ではコミュニケーションを中心に、「話す、聴く、(読み手を想定して)書く」能力を測ります。「ヨーロッパ言語参照枠」A1 レベルが目標です。独検5級の合格圏内に入ります。

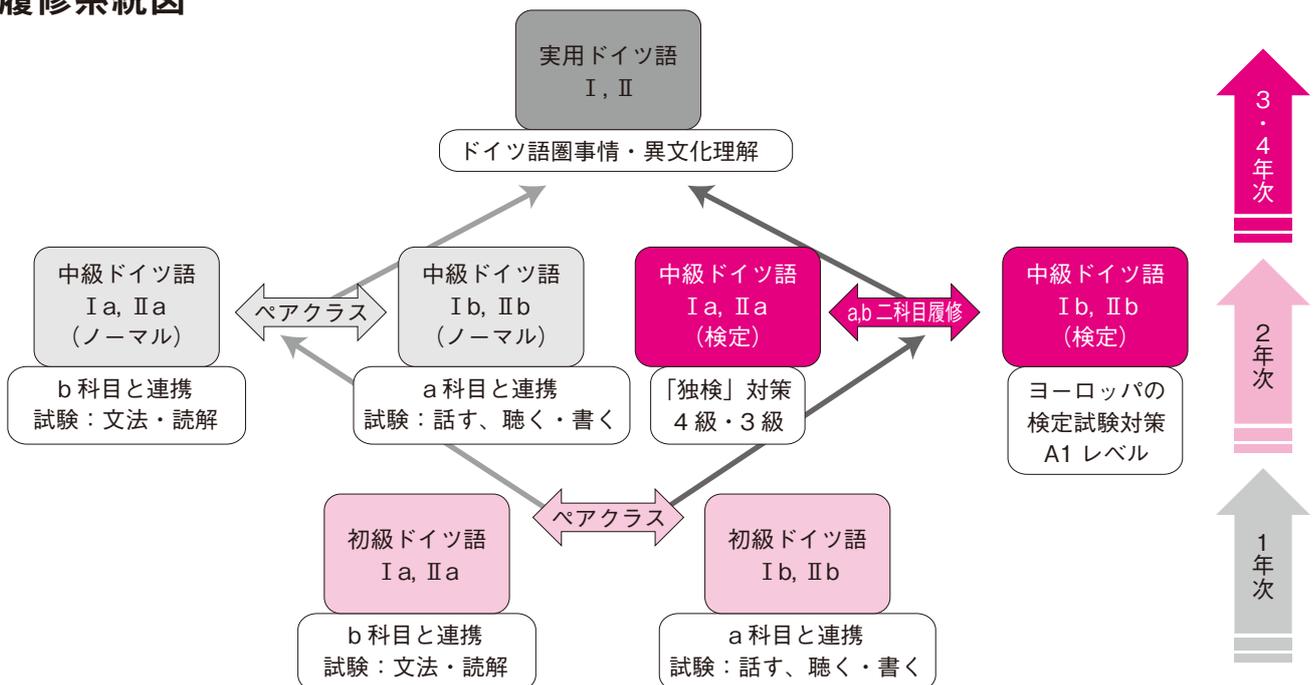
中級ドイツ語 I (ab)・II (ab)

ノーマル・クラスでは、a と b はリレー式に進みます。「ヨーロッパ言語参照枠」A1 + プラスレベルが目標です。検定クラスは、a は「独検」3、4級を目指します。b は「オーストリア政府公認ドイツ語能力試験」A1 レベルならびに、ドイツ文化センターの Start Deutsch 1 に合格するためのドイツ語運用能力を養成することを目的とします。

実用ドイツ語 I・II

ドイツ語圏と日本との比較について読んだり、聴いたり、話したり、作文したりできるようになることを目的とします。「オーストリア政府公認ドイツ語能力試験」A2 レベル、ならびにドイツ文化センターの Start Deutsch 2 に合格するためのドイツ語運用能力を養成すること、また「独検」2級の合格も目標にしています。

履修系統図



フランス語

1年次		2年次		3年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期
初級フランス語 I a	初級フランス語 II a	中級フランス語 I a	中級フランス語 II a		
初級フランス語 I b	初級フランス語 II b	中級フランス語 I b	中級フランス語 II b		
				実用フランス語 I	実用フランス語 II

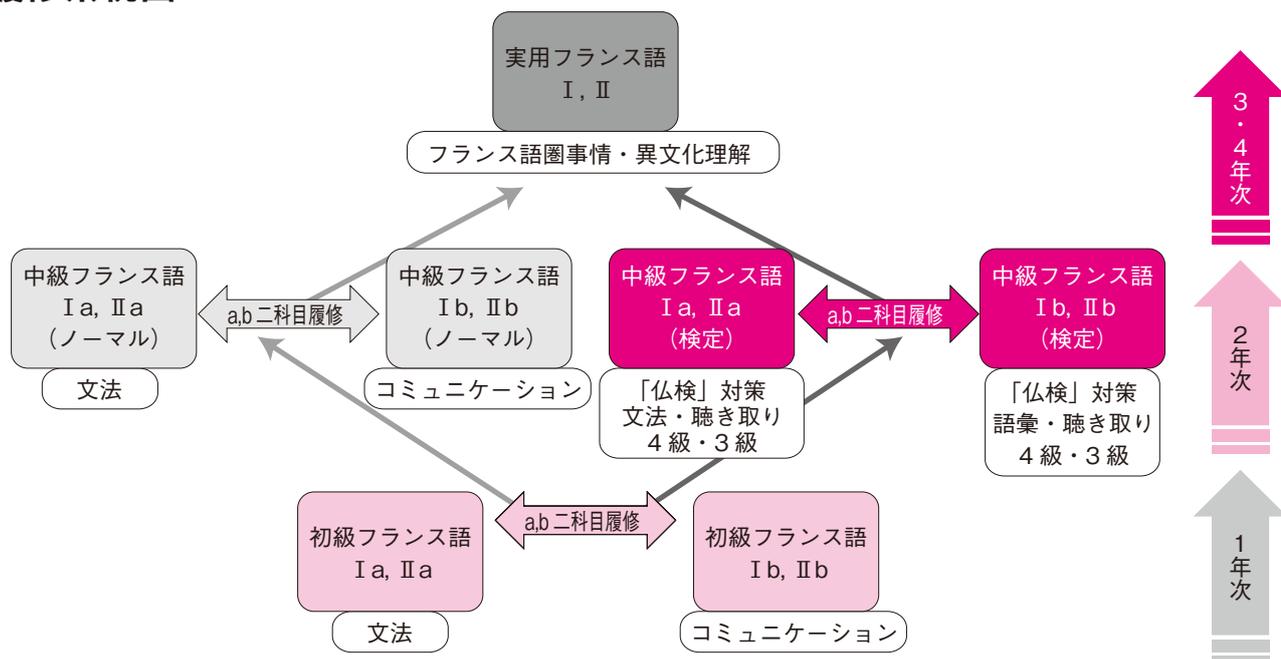
注) a: 文法クラス b: 読本クラス

初級フランス語 I (ab)・II (ab) I・II aでは文法。I・II bでは読解、会話。フランス語検定試験5級を目指します。

中級フランス語 I (ab)・II (ab) I・II aでは文法、I・II bでは会話聞き取りの練習。フランス語検定試験3、4級を目指します。

実用フランス語 I・II フランス語の総まとめ、新聞、映画、音楽などを楽しみながら、仏検準2級、2級を目指します。

履修系統図



外国語分野

中国語

1年次		2年次		3年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期
初級中国語Ⅰ a	初級中国語Ⅱ a	中級中国語Ⅰ a	中級中国語Ⅱ a		
初級中国語Ⅰ b	初級中国語Ⅱ b	中級中国語Ⅰ b	中級中国語Ⅱ b		
中国語入門会話Ⅰ	中国語入門会話Ⅱ	中国語基礎会話Ⅰ	中国語基礎会話Ⅱ	中国語会話Ⅰ	中国語会話Ⅱ
				中国語リーディングⅠ	中国語リーディングⅡ
				実用中国語Ⅰ	実用中国語Ⅱ

注) 初級中国語Ⅰ a・Ⅱ aは「読物編」、Ⅰ b・Ⅱ bは「会話編」。各1冊のテキストを1年間使用します。

初級中国語Ⅰ (ab)・Ⅱ (ab) 中国語習得の鍵は発音にあります。この時期のポイントは発音と簡体字、基本的な文法事項のマスターです。aとbで使用する2冊のテキストは内容が関連しています。相互に関連する事項をaでは読解を中心に学び、bでは会話を中心に学ぶことにより、バランス良く基礎を習得します。Ⅰ・Ⅱは継続して、またa・bは平行して履修しなければなりません。ただし、再履修クラスはこの限りではありません。

中級中国語Ⅰ (ab)・Ⅱ (ab) 初級中国語を終了した、あるいはそれと同等以上の基礎力のある人を対象としたクラスです。検定クラスとノーマルクラスに分かれます。検定クラスは6月に4級、11月に3級に合格することが目標です。検定クラスはそれらの級に合格することにより定期試験の受験が免除された上で最上級の評点が与えられます。また、検定試験に合格しなくても、定期試験を受験して合格することにより一定の評点が与えられます。ノーマルクラスⅠ a・Ⅱ aは読解を中心に、Ⅰ b・Ⅱ bは会話を中心に学習します。検定クラスとノーマルクラスは平行して履修することができません。また、検定クラス・ノーマルクラス共に、Ⅰ・Ⅱを継続して、またa・bを平行して履修しなければなりません。

中国語入門会話Ⅰ・Ⅱ ネイティブの先生による少人数クラスで、会話の初歩を学習します。初級中国語の補習クラスという位置づけですが、初級中国語を履修せずに他言語の初級科目を履修している人であってもこの科目を履修することができます。Ⅰ・Ⅱは継続して履修しなければなりません。

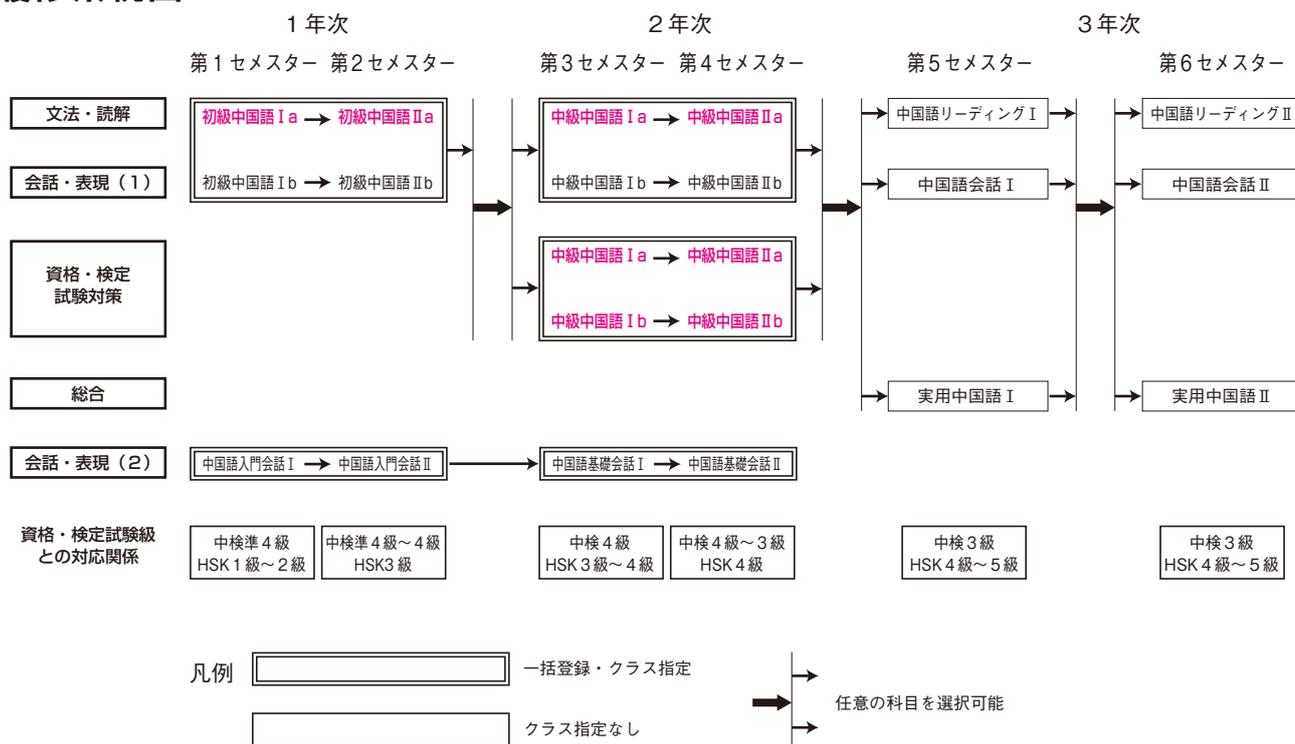
中国語基礎会話Ⅰ・Ⅱ ネイティブの先生による少人数クラスで、会話の基礎を身に付けます。初級中国語と中級中国語との中間程度にレベルを設定しています。中級中国語の内容を補完するという位置づけですが、初級中国語を履修したのと同等の基礎力があれば、他言語の初級科目を履修した人であってもこの科目を履修することができます。Ⅰ・Ⅱは継続して履修しなければなりません。

中国語会話Ⅰ・Ⅱ 中級中国語を終了した、あるいはそれと同等以上の学力のある人を対象としたクラスです。ネイティブスピーカーを相手に会話を実践することにより会話力を向上させます。自分の考えを中国語で話してみましょう。少人数だからこその授業です。Ⅰ・Ⅱは連続した内容なので共に履修することが望ましいのですが、それぞれを単独で履修することもできます。

中国語リーディング I・II 中級中国語を終了した、あるいはそれと同等以上の学力のある人を対象としたクラスです。辞書を頼りにナマの中国語が読める能力を養います。I・IIは連続した内容なので共に履修することが望ましいのですが、それぞれを単独で履修することもできます。

実用中国語 I・II 中級中国語を終了した、あるいはそれと同等以上の学力のある人を対象としたクラスです。教材用ではない生(ナマ)の中国語ニュースを材料にして中国の今(イマ)を学びます。中国の今を理解するために不可欠な情報を得ることができます。I・IIの内容に連続性はなく、それぞれを単独で履修することができますが、共に履修の方が望ましいことは言うまでもありません。

履修系統図



注1：中級中国語は、文法・読解系および会話・表現(1)系と資格・検定試験対策系とは排他履修

注2：資格・検定試験対策系の中級中国語は中国語検定試験(中検)の合格級を成績に反映させる

注3：会話・表現(2)系の中国語入門会話・基礎会話は中国語で初歩的な会話ができるようになることに特化した科目；他の系統と同時に履修することもできるし、この系統だけを履修することも可能

外国語分野

朝鮮（韓国）語

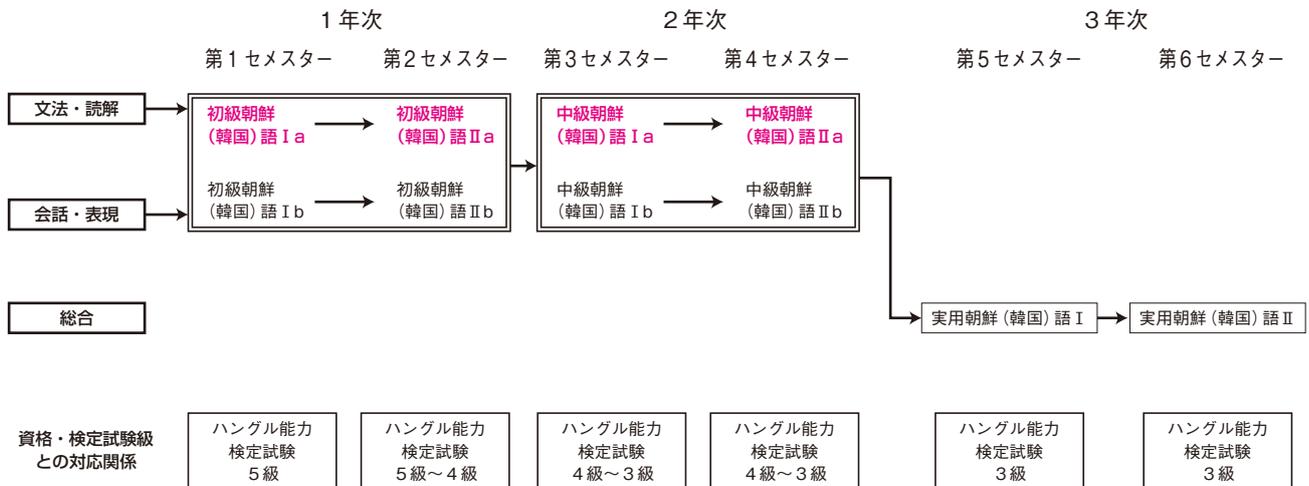
1年次		2年次		3年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期
初級朝鮮（韓国）語 I a	初級朝鮮（韓国）語 II a	中級朝鮮（韓国）語 I a	中級朝鮮（韓国）語 II a		
初級朝鮮（韓国）語 I b	初級朝鮮（韓国）語 II b	中級朝鮮（韓国）語 I b	中級朝鮮（韓国）語 II b		
				実用朝鮮（韓国）語 I	実用朝鮮（韓国）語 II

初級朝鮮（韓国）語 I (ab)・II (ab) I a・I bの学習の中心は発音と文字(ハングル)です。文字が読めると、がぜん朝鮮(韓国)語が身近になります。II a・II bから本格的に文法を学びます。I・IIは継続して、またa・bは平行して履修しなければなりません。

中級朝鮮（韓国）語 I (ab)・II (ab) I a・I bでは引き続き、文法・表現・単語を学びます。II a・II bでは基本文法を仕上げます。日常会話に必要な基本的表現が使えるようになります。I・IIは継続して、またa・bは平行して履修しなければなりません。

実用朝鮮（韓国）語 I・II 新聞、雑誌などが辞書を使って読めるようになります。IIではハングル検定3級合格の力をつけることが目標です。I・IIは連続した内容なので共に履修することが望ましいのですが、それぞれを単独で履修することもできます。

履修系統図



凡例 一括登録・クラス指定
 クラス指定なし

情報分野

情報分野は2つの科目群から構成されています。一つは【基礎情報処理実習】と呼ばれる科目、もう一つは【情報処理応用】と呼ばれる科目です。科目名称によって授業内容が異なります。

1年次 開講科目

前 期	後 期
基礎情報処理実習Ⅰ 【情報リテラシー入門科目】 開講時間は各学部により異なります	基礎情報処理実習Ⅱ 【情報リテラシー入門科目】 開講時間は各学部により異なります
情報処理応用Ⅰ 【資格取得を目指した科目】 (Microsoft Office Specialist : Word) KAC : 木曜日 1 限目、KPC : 金曜日 1 限目	情報処理応用Ⅲ 【資格取得を目指した科目】 (Microsoft Office Specialist : Excel) KAC : 木曜日 1 限目、KPC : 金曜日 1 限目
情報処理応用Ⅱ 【Excel 活用実践】 KAC : 木曜日 2 限目、KPC : 金曜日 2 限目	情報処理応用Ⅳ 【Word によるビジネス文書作成技術】 KAC : 木曜日 2 限目、KPC : 金曜日 2 限目

情報処理応用Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの履修上の注意

- A) コンピュータ操作の初心者を対象にした開講科目ではありません。
- B) Word や Excel のさらなるスキル向上を目指す学生は、積極的に履修登録してください。

2年次 開講科目

前 期	後 期
基礎情報処理実習Ⅲ 【ビジネスシーンの Word、Excel 活用】 KAC : 月曜日 1 限目、KPC : 月曜日 1 限目	基礎情報処理実習Ⅴ 【日商 PC 検定データ活用】 KAC : 月曜日 2 限目、KPC : 月曜日 1 限目
基礎情報処理実習Ⅳ 【Web クリエイター能力検定試験初級】 KAC : 月曜日 2 限目、KPC : 月曜日 2 限目	基礎情報処理実習Ⅵ 【日商 PC 検定ビジネス文書作成】 KAC : 月曜日 1 限目、KPC : 月曜日 2 限目
情報処理応用Ⅴ 【プレゼンテーション】 KAC : 火曜日 3 限目、KPC : 金曜日 4 限目	情報処理応用Ⅵ 【Web ページ作成方法】 KAC : 火曜日 3 限目、KPC : 金曜日 4 限目

資格取得、および情報リテラシー向上を実現する絶好の機会です。学士力（大学生が卒業までに身につけておくことが望まれる能力）の向上とともに、自信を持てる情報活用能力の会得を希望する学生は、履修することを強く勧めます。

※薬学部では2年次開講科目が受講できません。

情報分野 履修系統図

分類	1年次			2年次		
	対象資格・検定	第1 Semester	第2 Semester	対象資格・検定	第3 Semester	第4 Semester
総合	* 1	基礎情報処理実習 I	基礎情報処理実習 II			
	P検	基礎情報処理実習 I (資格対策クラス)	基礎情報処理実習 II (資格対策クラス)			
文章処理	MOS Specialist	情報処理応用 I 基礎情報処理実習 I (情報基礎とWord基礎)		日商PC検定		基礎情報処理実習 VI
	特に対象を定めない		情報処理応用 IV	特に対象を定めない	基礎情報処理実習 III * 2	
データ処理	MOS Specialist		情報処理応用 III 基礎情報処理実習 II (Excelの基礎)	日商PC検定		基礎情報処理実習 V
	特に対象を定めない	情報処理応用 II		特に対象を定めない	基礎情報処理実習 III * 2	
プレゼンテーション	MOS Specialist	基礎情報処理実習 I (Power Point Mos)		MOS Specialist	情報処理応用 V (Power Pointと プレゼンテーション)	
	特に対象を定めない		基礎情報処理実習 II (Power Point ビジネス活用)			
情報発信 (Web)				ウェブデザイン技能 検定		情報処理応用 VI
				Webクリエイター能力 認定試験	基礎情報処理実習 IV	

凡例 学部向け開講クラス (学部により、一括登録・クラス指定がある)

* 1 学部により、検定の設定に有無がある

* 2 同一科目で、文章処理、データ処理を共に学びます

注1：対象資格・検定欄において「特に対象を定めない」とある科目は、実践的内容、よりレベルの高い内容を含みます。

注2：一部学部では履修できない科目があります。所属学部履修の手引を参照してください。

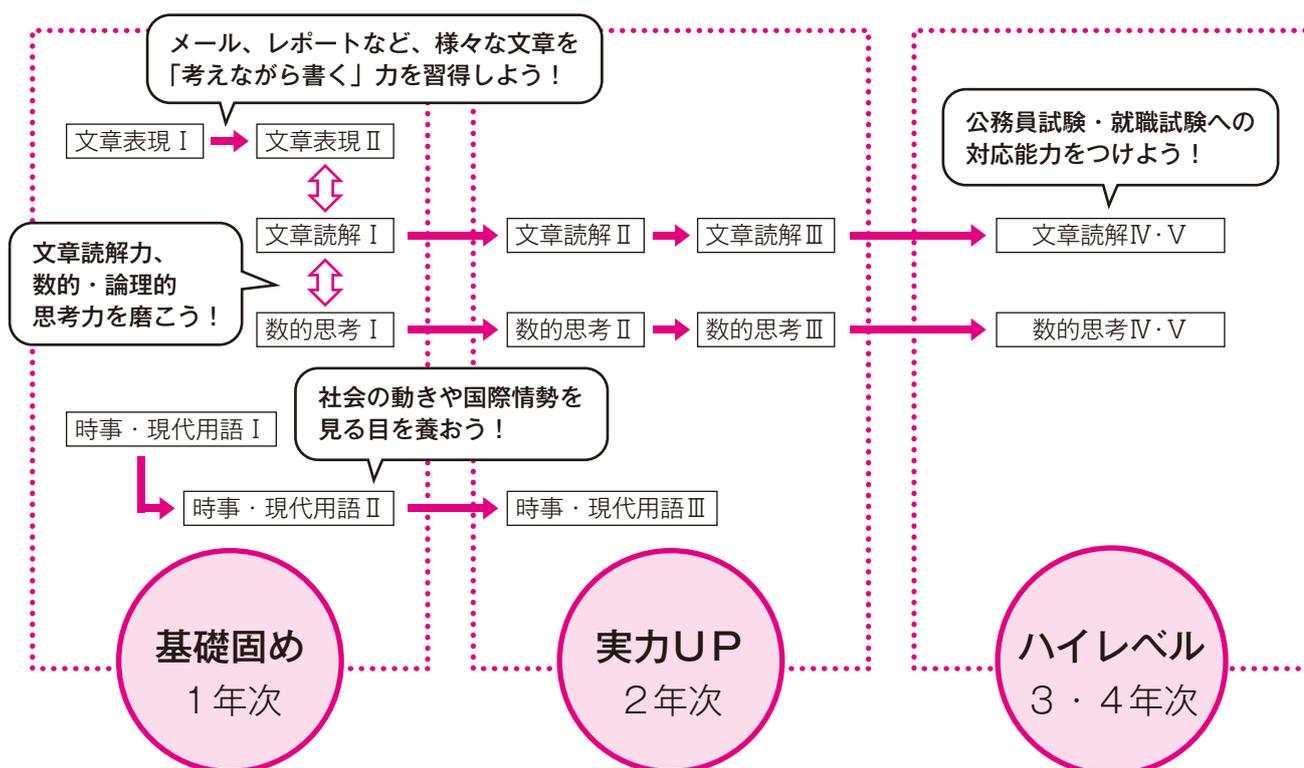
注3：サブタイトル () を除く科目名が同じ科目は、重複して履修することはできません。

基礎思考分野

大学での専門教育の基礎となる学習スキルの習得、
社会へ旅立つ上で不可欠な基礎学力の養成に効果的な科目群

基礎学力・基礎的なスキルの向上に向けて、この分野を有効に活用しよう！

就職試験、各種公務員試験などの対策にも効果的な科目で構成されていて、＜課外講座＞との併用でかなりの実力アップが期待できます。



＜アドバイス＞

将来、公務員試験の受験を目指す人には、この分野の科目を多く履修することをお勧めします。また、ある程度の基礎力が付いたら、＜課外講座＞の公務員採用試験対策講座との併用で実力アップを目指してください。

履修系統図

	1年次		2年次		3年次	
	第1 Semester	第2 Semester	第3 Semester	第4 Semester	第5 Semester	第6 Semester
文章表現	文章表現Ⅰ	文章表現Ⅱ				
文章読解		文章読解Ⅰ	文章読解Ⅱ	文章読解Ⅲ	文章読解Ⅳ	文章読解Ⅴ
数的思考		数的思考Ⅰ	数的思考Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ			数的思考Ⅴ
時事・現代用語	時事・現代用語Ⅰ	時事・現代用語Ⅱ	時事・現代用語Ⅲ			

※「文章表現」「文章読解」の各科目は履修人数制限があります。

※「文章表現Ⅰ・Ⅱ」は履修必修になっている学部もあります。

社会人入門分野

社会人入門分野では、入学直後の第1 Semester（1年次前期）から、体系的にキャリア関連科目を開講しています。

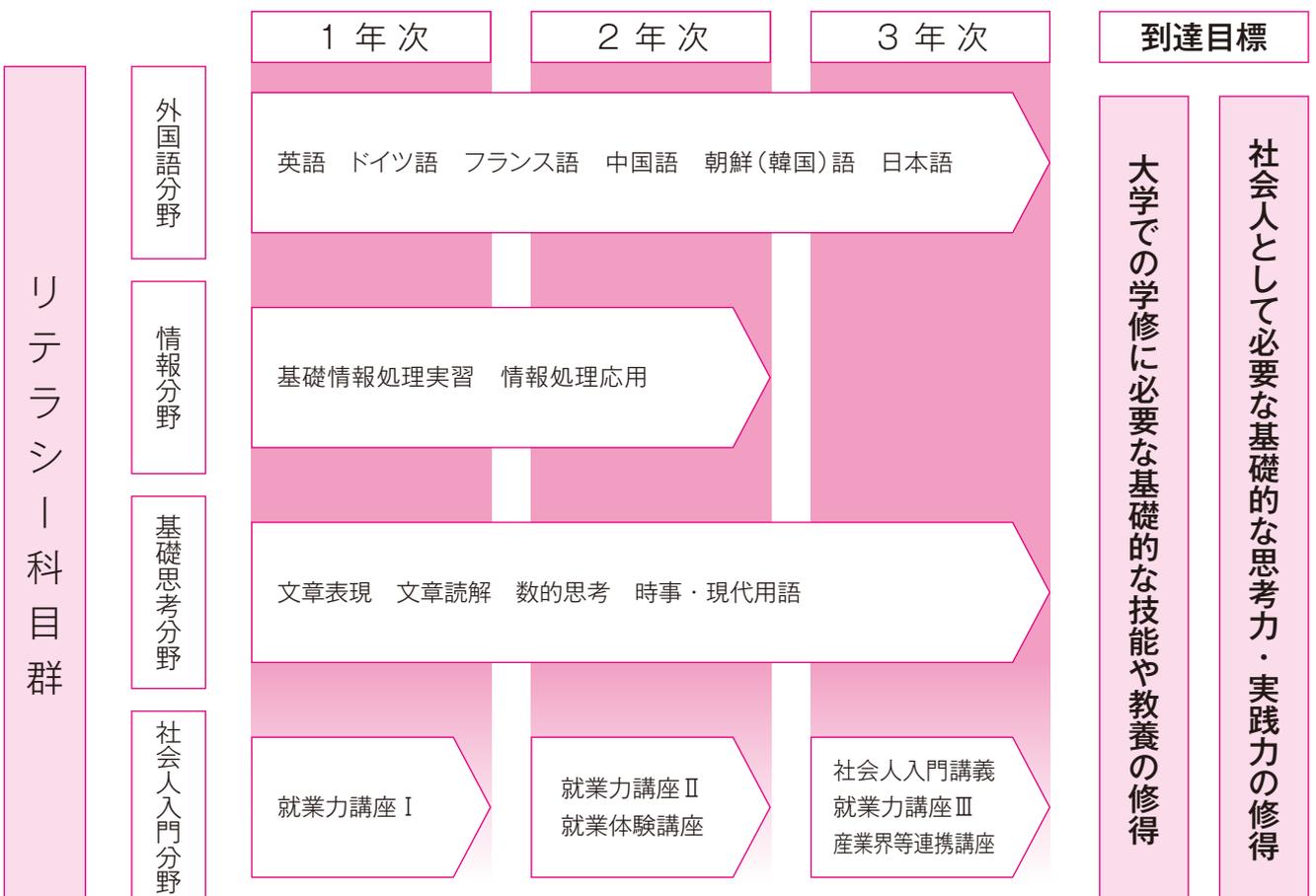
将来の進路実現に向け就業力を高めるため、1年次では自己理解や自己分析を行い、学生生活を通じた自分自身のキャリアデザインを考えます。2年次ではさらに社会人へ向けた意識をもって学生生活を過ごせるよう、より実践的な体験プログラムやケーススタディ等を通して自己理解を深めます。3年次では実際に企業や行政等へ赴いてのフィールドワークや、各業界で活躍する社会人を講師として招聘し、実社会の現状や貴重な体験談を伺うことにより、実践的就业力の向上を図ります。

また、同時に社会への関門を突破するうえで必要な、あるいは社会人として最低限必要とされるような知識・情報・技能を習得できるよう、有効な実学的関連科目も開講しています。

履修系統図

	1年次	2年次	3年次
社会人入門分野			社会人入門講義Ⅰ → 社会人入門講義Ⅱ
就業力科目	就業力講座Ⅰ →	就業力講座Ⅱ →	就業力講座Ⅲ
		就業体験講座	産業界等連携講座

リテラシー科目群履修の流れ

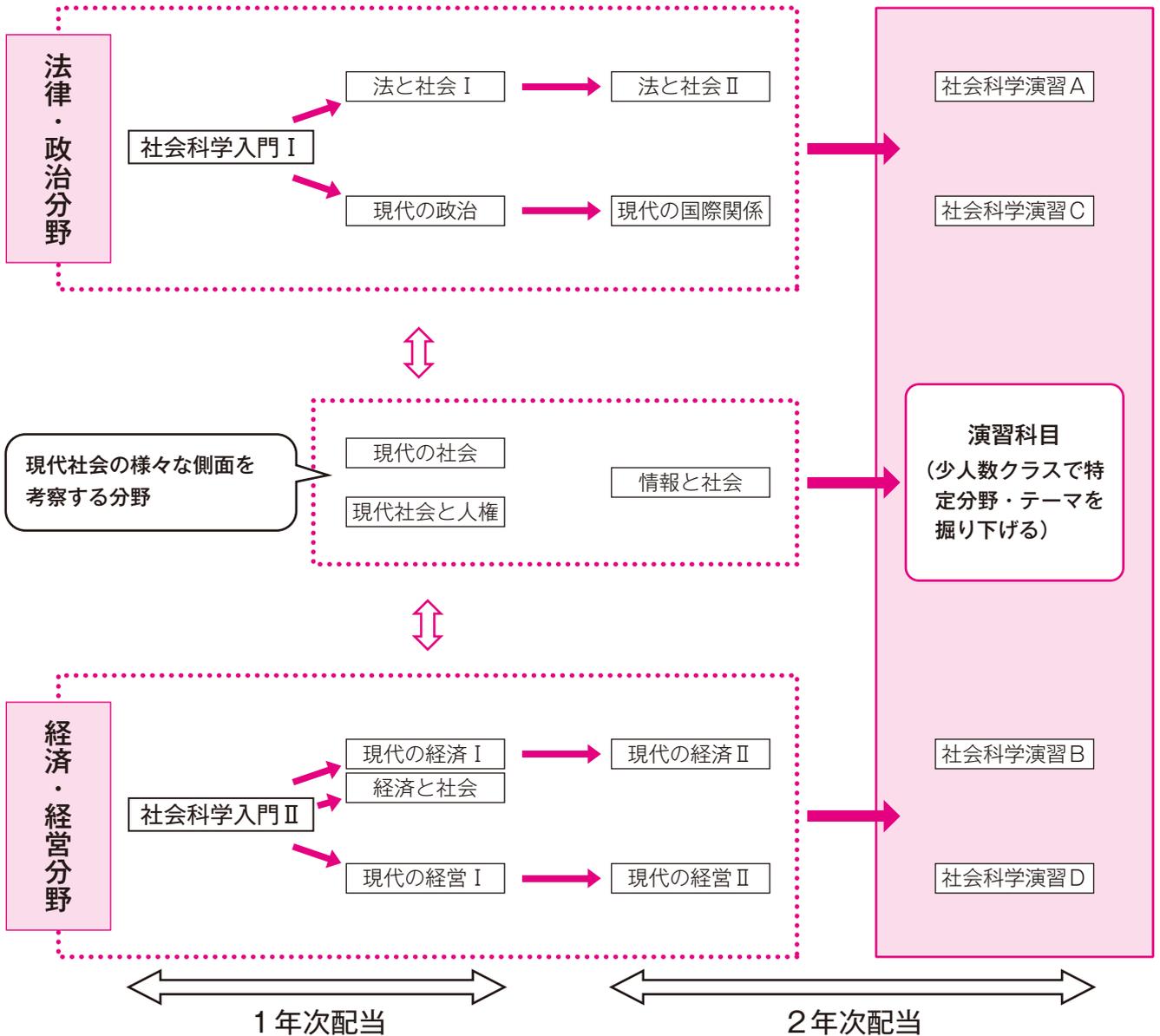


社会科学分野

法学、政治学・国際関係、経済学、経営学の分野、および現代社会のさまざまな現象をめぐるトピックスなど、社会科学分野の基礎知識や思考方法を学びます。

現代社会を見る眼を養うのに適した分野です。基礎思考分野（P 13）の「時事・現代用語」と合わせて受講することで、常識力アップに役立ちます。なお、科目名が同一でも担当者によって講義の内容が異なるので、シラバスでよく確認してください。

履修系統図



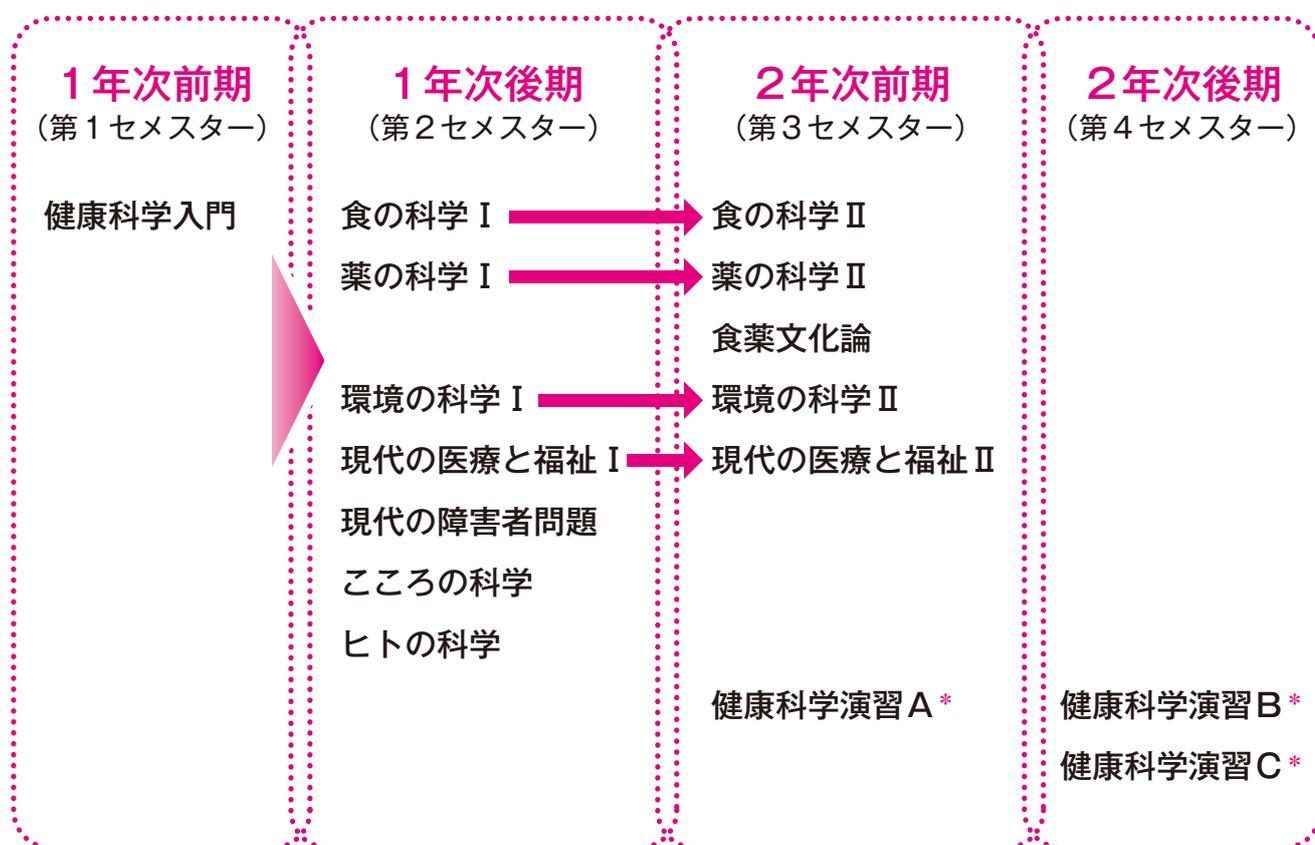
< 注意 >

- 「社会科学入門Ⅰ」「法と社会Ⅰ」「法と社会Ⅱ」「現代の政治」「社会科学演習 A」「社会科学演習 C」は、法学部では開講されません。
- 「社会科学入門Ⅱ」「現代の経済Ⅰ」「現代の経済Ⅱ」「経済と社会」「現代の経営Ⅰ」「現代の経営Ⅱ」「情報と社会」「社会科学演習 B」「社会科学演習 D」は、経済学部および経営学部では開講されません。

健康科学分野

本学に設置されている健康に関する4つの学部・学科(人文学部人間心理学科、総合リハビリテーション学部、栄養学部、薬学部)の先生方がそれぞれの専門分野に関する話題をわかりやすく講義します。

履修系統図



*健康科学演習A、B、Cでは、「食の科学」から「ヒトの科学」までの12科目のうち1科目をとりあげて演習を行います。

科目名称が同じでも担当者によって講義の内容が異なります。
シラバスをよく読んで選択してください。

健康科学分野（スポーツ科学）

スポーツ科学入門、スポーツ科学演習 A・B・C

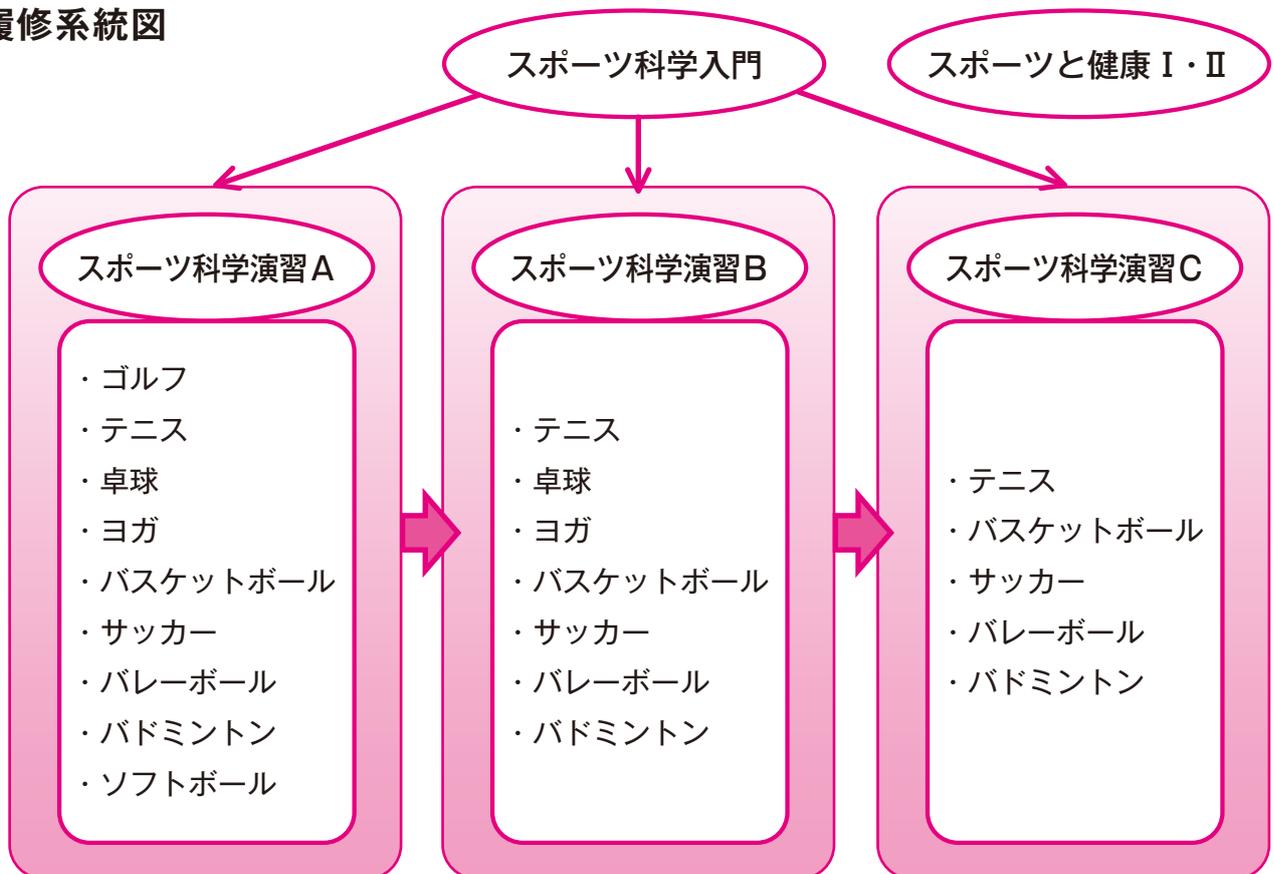
スポーツ科学入門は、スポーツ科学演習 A・B・C の入門講義である。スポーツ科学の基礎を紹介するとともに、競技規則などについても説明を行う。スポーツ経験の有無を問わず、スポーツの楽しさや喜び、すばらしさを共有し、スポーツの意義やスポーツを「する」、「みる」、「ささえる」際の魅力を紹介する。

スポーツ科学演習は、実技の理論を講義で学び、講義の内容を実技で実践する形式をとっている。科目の構成は、個人的・集団的活動に関する実践的理解が中心となる。身体運動の実践による技能の向上と競技規則および戦術などを理解する（キャンパスにより種目は異なる）。

スポーツと健康 I・II

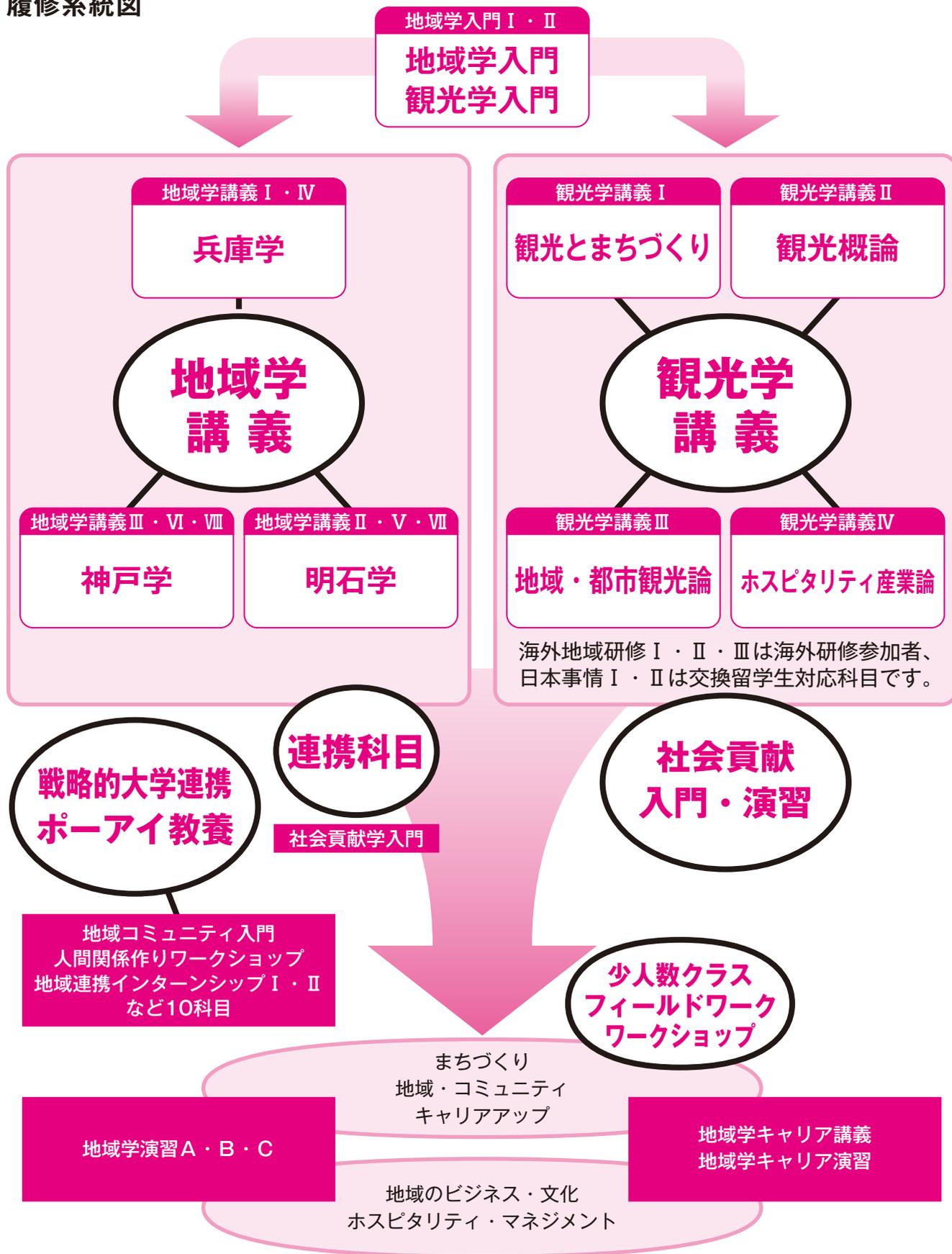
近年わが国では、高齢社会を迎えているなかで「健康」や「体力」に対する関心は非常に高いものがある。生涯にわたってスポーツとかわり、「健康で豊かな日々を過ごす」ために必要なスポーツの文化的特質、身体運動の仕組みなどを学ぶ。

履修系統図



地域学分野

履修系統図



※上記の内、白文字が具体的な科目名

編集・発行 **神戸学院大学 共通教育センター**

〒651-2180 神戸市西区伊川谷町有瀬518番
TEL (078) 974-1551 (代)